

2023年12月28日



「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約締結について
 ～株式会社カネックスのサステナブル経営をサポート～

名古屋銀行（頭取 藤原 一朗）は、株式会社カネックス（代表取締役 金岡 秀介）と「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

当行は、今後もグループ一体となり、銀行の既存のビジネスモデルに捉われない持続可能な収益機会の創出及び付加価値の高いサービスを提供し、さまざまなお客さまの経営課題解決を通じて地域社会とともに未来を創造してまいります。

記

1. 契約締結日 2023年3月28日（火）
2. 融資金額 50百万円
3. モニタリング期間 5年
4. 資金使途 事業資金
5. PIF 評価書 添付資料をご参照ください。

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記 URL をご参照ください。
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

6. 株式会社カネックスの概要

代 表 者	金岡 秀介
本社所在地	愛知県名古屋市港区東茶屋 2 丁目 320 番地の 2
業 種	道路運送業
設立年月日	1981年8月4日

<記念盾贈呈式の様子>



株式会社カネックス
 代表取締役 金岡 秀介 氏

株式会社名古屋銀行
 鳴海支店長 片原 久雄

参考：「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の取り扱い開始について

https://www.meigin.com/release/files/20220111meigin_PIF.pdf

以 上

ポジティブインパクトファイナンス評価書

～ 株式会社カネックス ～



2023年12月28日
株式会社名古屋銀行
法人営業部 法人コンサルティンググループ

はじめに

株式会社名古屋銀行は、株式会社カネックスに対し、めいぎんポジティブインパクトファイナンス（以下、めいぎん PIF）を実行した。

本件取組にあたって、株式会社名古屋銀行は国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則り、株式会社カネックスの企業活動における包括的なインパクトを分析し、充実したサステナビリティ経営に向けた KPI を設定した。

借入人概要

借入企業	株式会社カネックス
所在地	愛知県名古屋市港区東茶屋 2 丁目 320 番地の 2
事業内容	道路運送業

融資条件概要

融資形態	証書貸付
融資金額	50,000,000 円
資金使途	運転資金
融資・モニタリング期間	5 年

目次

1. 企業情報	3
①会社概要	
②沿革	
③経営理念・ビジョン	
2. 事業内容	7
①一般貨物自動車運送事業	
②産業廃棄物収集運搬業	
③保有車両	
3. その他の活動	11
①安心・安全の徹底	
②環境への取組	
4. インパクトの特定	14
①インパクトマッピングによるインパクト分布	
②インパクト分布図	
③国内のインパクトニーズ	
5. 測定する KPI	18
・ポジティブインパクトの拡大	
・ネガティブインパクトの縮小	
6. インパクト管理体制	19
7. モニタリング方法	19
8. 総括	19

1. 企業情報



① 会社概要

会社名	株式会社カネックス
設立年月日	1981年8月4日
代表取締役	金岡 秀介
本店所在地	愛知県名古屋市港区東茶屋2丁目320番地の2
従業員数	65名 ※2023年10月末時点
決算日	9月30日
資本金	13百万円
直近売上高	745百万円 (2022年9月期)



② 沿革

1973

1973.06

服部運輸有限会社 創業。一般貨物自動車運送事業を始める。(本社:名古屋市緑区鳴海町 営業所:名古屋市緑区桶狭間)



1983.02

会社設立

1990

1991.04

株式会社化を行い、株式会社カネックスに社名変更。愛知県海部郡飛鳥村に営業所移転。



平成初期

ユニック車を購入。ユニック車のラインナップを充実させることで、多様なご要望に安定のクオリティでお応えできるようになる。



2020

令和初期

カネックスはこれからも建築資材輸送のプロフェッショナルとして、お客様、そして全社員に信頼と安心をお届けできる企業であり続けます。



20

2023.10

名古屋市港区東茶屋に本社新社屋移転



③ 経営理念・ビジョン

経営理念

迅速 確実 安全に。
日本のミライを運ぶ会社

3つの経営ビジョン



全車ユニック車による建築資材輸送のプロフェッショナルカンパニーとして、「迅速」「安全」「確実」をモットーに、顧客から必要とされ、社員全員からも愛される魅力企業となることが当社の経営理念である。

創業50年の当社は、大切な顧客との信頼関係構築・向上は当然のこと、当社の財産である社員の未来のため、働きやすい環境づくりや安全作業向上を目指し、新しい取り組みにも果敢にチャレンジをしてきた。毎日明るく・健康的な社員なくして企業は成立しないとの考えにより、今後も多くの大切な顧客と社員の未来向上のため、様々な挑戦を続けていくことを宣言している。

【魅力企業になるために】

●健康企業

労働環境（休日・労働時間）の向上、平等・公平な社員評価、適正・明確な賃金体系、明るい・コミュニケーションのある職場、全社員とその家族の更なる幸福を目指す

●需要企業

当社の特色を確立し、顧客から常に必要とされる企業を目指す

●信頼企業

創業より培ってきた様々な経験を元に「どうすればもっと安全に出来るか」を常に追求し、全社一丸となって向上心を持ち、顧客にとっても安心・安全な企業を目指す

2. 事業内容

① 一般貨物自動車運送事業



当社は、建設現場に必要な足場や敷鉄板を中心とした仮設材の運搬業務を行っている。

時間が限られる建設現場で、顧客の業務を滞らせることの無いように職人ドライバーが「迅速」に積み下ろし、熟練した技で無駄なく「确实」にクレーンを操作し事故・トラブルのないように徹底的な安全教育と管理体制の下に「安全」な運搬業務に従事している。

(1) 運送だけでなく現場作業も



現場内の資材運搬、資材整理、敷鉄板盛替え作業等の現場作業も行っている。

若手社員への実務指導は丁寧に厳格に行われており、その結果として実務試験合格後にはベテラン社員としてスマートなワンオペレーション作業が実現されている。

(2) 多くのドライバーが在籍



現状当社には、20代から50代まで55名のドライバーが在籍している。

安全第一で運搬業務を遂行するために、若手社員はもちろんベテラン社員にも安全教育研修を毎月行なっており、丁寧な指導と教育で確かな技術が磨かれている。

(3) 全車両ユニック車を使用



保有車両は全車(4t車・6t車・12t車)ユニック付の車両である。地域最大級の保有台数を誇り、あらゆる現場に対応可能な体制を整えている。

(4) 死亡事故ゼロ



当社は創業以来死亡事故ゼロを継続・維持し続けている。

何よりも一番大切な“命”を、座学はもちろん現場指導も含むノウハウ重視の細やかな安全教育活動で、今日も明日も大切な“命”を第一優先に考え続けている。

(5) コミュニケーション



迅速、確実、安全に作業するために必要な「情報共有」は、顧客との綿密な打合せと、社内の話しやすい環境づくりが必要となる。社内外で明るく豊かなコミュニケーションを重ね、疑問点の共有・改善提案、安全管理等も、シームレスに行える企業文化が醸成されている。

②産業廃棄物収集運搬業



当社は、顧客の建設現場にて排出された産業廃棄物の収集や、指定の処分場への運搬も行っている。

愛知県では10品目、岐阜県と三重県では7品目が対応可能。

専門ルートを確認しているため、建設・解体時の産業廃棄物の収集運搬を迅速・確実・安全に実施可能である。

③保有車両



●4 t ユニック車 : 17 台

当社のユニック車の中では最もコンパクトなタイプ。

小回りが利き、住宅街など狭い現場への輸送を得意としている。

最大積載量 : 2,250kg

ブーム段数 : 3 段



●6 t ユニック車 : 11 台

4t ユニック車をベースにし、積載重量が4t ユニック車より多く、12t ユニック車が入れない狭い現場への輸送を得意とし、非常に使い勝手が良い。

最大積載量 : 7,400kg

ブーム段数 : 4 段



●12 t ユニック車 : 21 台

当社のラインナップの中では最も大型のユニック車。

荷台寸法・積載量が大きく、重量物・長尺物の輸送を得意としている。

最大積載量 : 12,000kg

ブーム段数 : 4 段

3. その他の活動

①安心・安全の徹底

当社では人材の「安全」は顧客の「安心」へ直結しているとの考えを強く持ち、安心・安全への取組に特に力を入れている。

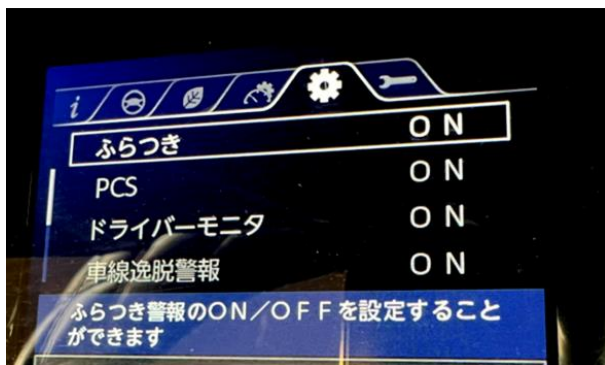
座学はもちろん現場指導も含むノウハウ重視の細やかな安全教育活動を行っており、創業以来、大きな事故ゼロというカネックスクオリティを実現し、現在も無事故日数（死亡事故、重傷者、交通災害の無い連続日数）を更新し続けている。

【安全・安心への3つの取組】

(1) 事故防止装置の設置



- 高さ制限装置で不用意な接触トラブルを回避。
任意設定の制限高に近づくとブームが減速、自動停止を行う。作業終了後もクレーン全自動格納機能で安全に格納され、ブーム・アウトリガ未格納警報装置で走行時の安心に貢献。格納忘れによる事故を未然に防止している。



- 車間距離・死角レーザーセンサーが搭載されており、ミリ波レーダーによる見通しの悪い交差点での出会い頭の事故や、右左折時の前方死角での接触事故などの抑制、画像センサーによる衝突・追突事故の防止、さらにはドライバー異常時対応システムによる安全運転困難時の社内外への報知、車両の減速・停止も支援する。



- モーメントリミッター（過負荷防止装置）は、クレーンの限界能力を超え、転倒事故や破損事故発生の危険を防止するために装備されている。吊り荷の重量が定格荷重（最大荷重）を超えると、自動的に警報（ブザー）を出し、オペレーターへ危険作業であることを知らせることができる。

(2) 従業員の健康管理



日常的な健康管理を徹底し、快適な日常生活を維持することは、業務中の事故防止に大きく寄与している。

当社では、必ず乗務前点呼を実施し、都度乗務の判断を的確に行っているが、それでも運転者が運転中に体調が悪くなった場合、直ちに路肩に停車し、運行管理者に連絡しリアルタイムで情報共有する体制を徹底している。

全従業員が定期健康診断を実施し、ストレスや健康面に異常があった場合は、医師からの意見を聴取し、運転者の就業上の適切な措置を行っている。また、乗務の開始前、終了後等において運転者の酒気帯びの有無を確認する際にアルコール検知器による検査を実施し、酒気帯び運転を防止している。

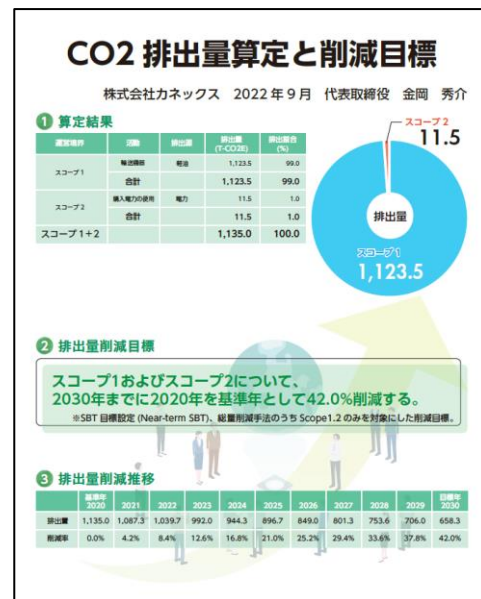
(3) 安全第一の教育カリキュラム



新人ドライバーはもちろん、中途採用のベテランドライバーも入社後の安全研修の受講を必須としており、ベテランドライバーの助手席にのり、掛け声や運転ルート、積み下ろしなどの安全な作業方法、注意点等を徹底して教育し、どの現場へ行っても認められるカネックスクオリティを教え込んでいる。

上記に加え、全従業員を対象とした月に1度の安全教育講習会を開催し、数多くあるゼネコンごとの個別のルールを学習・復習して、勘違い・うっかりミスを防止するとともに、年に2回ユニック車のメーカー企業より、車両性質に詳しい開発担当者を特別講師として呼び、過去の統計データ分析を元にしたケーススタディ講習会を実施することで、現場・人材ごとに差分のない危機意識と管理が実現している。

②環境への取組



環境に負荷のかかる車を使う事業だからこそ、環境のためにできることは多いと当社は考えている。環境を守り、平和を育て、地球と共存していくために、当社の仕事も、街の将来も、日本・地球のこれからも、全て健康で健全な環境あつての「未来」であるとの思いから、まずは小さなことから日々積み重ね、環境に対する活動を続けている。

●アイドリングストップ車を使用

ドライバーが車を停止させる際にエンジンを停止し、発進しようとするれば自動でエンジンを再び始動させる機能を全車両に搭載

●排気ガスが出にくいクレーン車

環境保護のため、排出ガス規制に沿った排気ガスが出にくいクレーン車を使用

●アラート発令

車のふかしすぎを防ぐため、一定の時間を超えるとアラート発令

●CO2排出量の算出

使用燃油量および電気量を集計し、CO2の排出量を計測。自社の環境に対する取組がどれほど効果的かを把握し、更なる改善策実施に活用する。

4. インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

名古屋銀行は事業性評価におけるビジネスモデル（非開示）により株式会社カネックスの主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。株式会社カネックスの業種カテゴリは多岐に渡る為、分布図は主要業種の掲載に限定する。

分布図中の「★★」は重要な影響があるカテゴリ、「★」は影響があるカテゴリを示す。株式会社カネックスの事業活動については「★★」「★」の影響をすべて検討する。加えて、株式会社カネックスが直接関与できない川下の事業活動に対しては次の事項を検討する。

ポジティブ面では川下の事業でポジティブな影響の促進やネガティブな影響の緩和に株式会社カネックスの事業が貢献できることがないか検討する。

ネガティブ面では川下の事業において重要な影響があるか影響が及ぶ地域での対応のニーズが強いカテゴリについて、取引関係の管理などを通じて緩和に貢献できるか検討する。

分析の対象となる事業活動がインパクトマッピングの業種分類に含まれる特定の事業の場合、当該事業とは無関係なインパクトカテゴリについては検討しない。

② インパクト分布図

インパクトカテゴリ	当社の事業				川下の事業			
	【 3811 】		【 4923 】		【 4100 】		【 4290 】	
	非有害廃棄物収集業		道路貨物運送業		建築工事業		その他の土木工事業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水（入手）	★							
食料								
住居					★★			
健康・衛生	★★			★★	★	★		★
教育								
雇用	★	★	★	★	★	★	★★	★
エネルギー					★	★		
移動手段			★					
情報								
文化・伝統	★					★		★
人格と人の安全保障						★		
正義								
強固な制度・平和・安定								
水（質）	★★					★		★
大気		★		★★		★		★
土壌	★★	★★		★★		★		★
生物多様性と生態系サービス	★★			★★		★		★
資源効率・安全性	★	★		★★		★		★
気候		★		★★		★★		★
廃棄物	★★	★		★		★★		★
包摂的で健全な経済	★		★		★		★★	
経済収束					★		★★	

●当社事業

カネックスクオリティを実現するための安全教育を中心とした人材育成施策や、社内外でコミュニケーションを重ね、疑問点の共有・改善提案などをシームレスに行えるよう醸成された企業文化は、『雇用』のP Iへの貢献が認められる。

また、高速道路や公共施設などの社会貢献性の高い建設現場への支援も多く、住み続けるための街づくりが安全かつ効率的に促進されるために提供される当社の高いサービス品質は『移動手段』『包摂的で健全な経済』のP I拡大に寄与している。

加えて、建設現場で排出された産業廃棄物を収集し指定の処分場へ運搬する廃棄物収集運搬業を、仮設材運搬と同時に行っていることは、廃棄物の適正処理やリサイクルの活用の促進に繋がっており、『資源効率・安全性』『廃棄物』におけるP Iを拡大させている。

労働災害発生の危険性や労働環境悪化の懸念により『健康・衛生』『雇用』についてのN Iが想定されるが、従業員が安全・安心で働くための各種事故防止装置の設置や、身体・精神の両面における健康管理施策などの各種施策によりN I緩和に努めている。

また、輸送事業を行う際に排出される有害物質や温室効果ガスによる『大気』『気候』の面でのN Iについては、「アイドリングストップ機能」「ふかしすぎ防止アラート」の導入や、排気ガスの少ないクレーン車の利用等、環境に対する積極的な取り組みを当社は続けており、今後とも環境のことを考えたN I縮小に貢献するための対策を進めていく方針である。

●川下事業

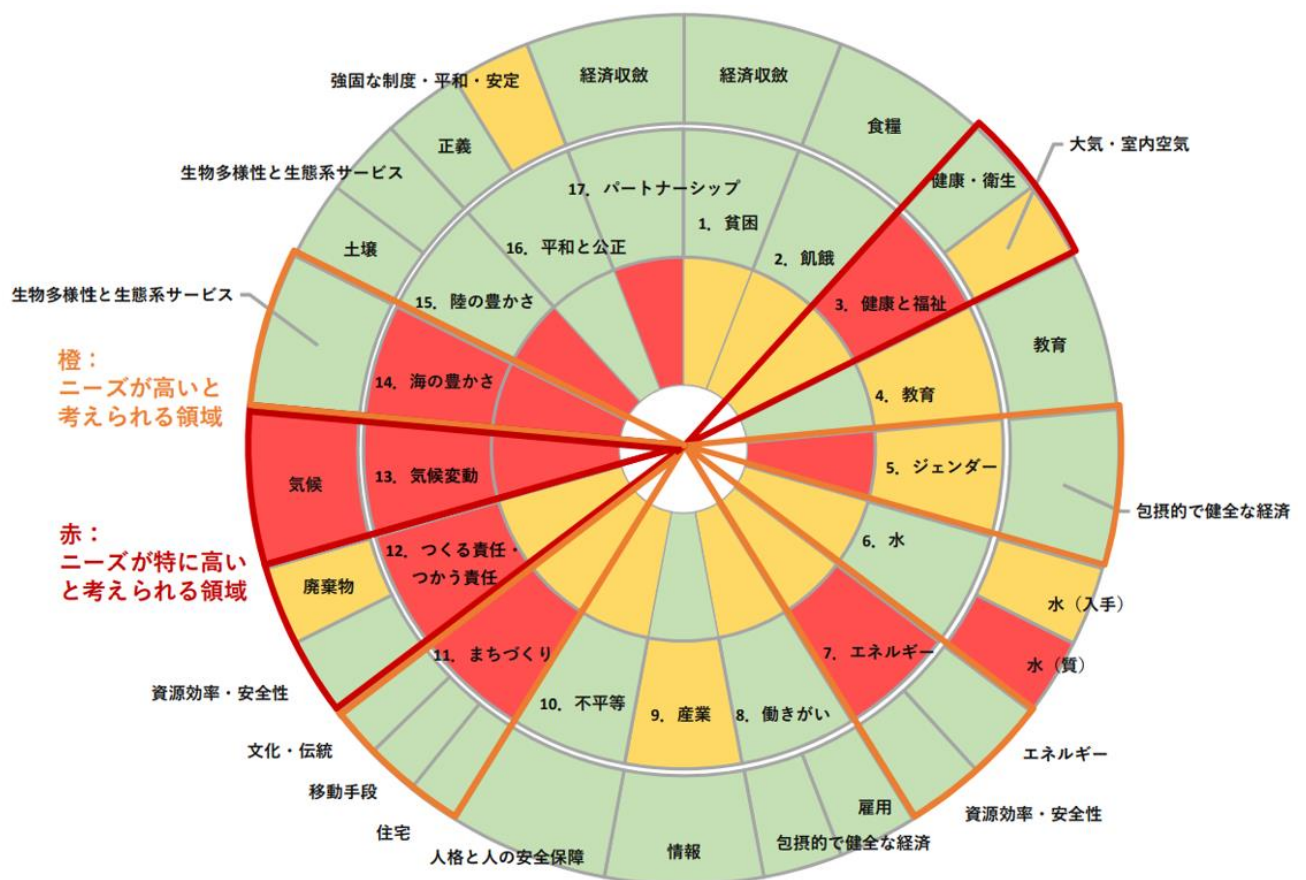
建設作業が効率的かつ安全に進むために、当社は創業から50年以上かけて培われた高い技術力とノウハウを活用して住宅を含む建設現場の仮設資材を提供し、現場の組み立てまでを行うことで安全な作業環境を提供し、建設のサプライチェーンに貢献している。これらの事業活動により、川下企業の特に『住居』『雇用』『包摂的で健全な経済』のP I拡大を促進させている。

一方、N Iの緩和策としては、建設工事過程で生じる廃棄物を要因とした『資源効率・安全性』『廃棄物』のN Iに対して、廃棄物収集業における有用性の向上や廃棄物の取扱管理の厳格化を進め、緩和を図っていく。

③ 国内のインパクトニーズ

環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」における国内のインパクトニーズは下記の図によって表される。特に取り組むべき SDGs を赤色、取り組むべきであるが不十分な SDGs を黄色、その他を緑色としているものである。

次ページの「5. 測定する KPI」において名古屋銀行が特定した株式会社カネックスのインパクトと対応する SDGs のゴールのうち「11, 12, 13」について、赤色もしくは黄色のゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズとの整合的である。





5. 測定するKPI

① 人材育成による生産性の向上

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大 社会面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連するSDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で成長のしやすい労働環境の整備 ・人材育成による生産性の向上
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・物損のみも含めた年間の事故件数を5件以下にする ・2027年度までに円滑な知識・技術承継がなされ若手の成長を促進させるための育成ロードマップを作成する ・安全講習以外における具体的作業事例や対人コミュニケーションなどに関する社内勉強会を年4回開催する ・2027年度までに従業員一人当たりの売上高を2022年度対比10%増加させる

② 環境に配慮した事業展開

項目	内容
インパクトの種類	環境面でポジティブインパクトを拡大、環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」
関連するSDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物収集運搬の積極的な推進 ・アイドリングストップ促進や効率的輸送による燃費使用量の削減
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2027年度までに廃棄物収集運搬業における売上高を2022年度対比10%増加させる ・年間の燃油使用料を10%削減する

6. インパクトの管理体制

株式会社カネックスは代表者を中心としてサステナビリティ経営充実の為の施策を各事業部及び法人本部が連携してSDGsの施策を検討・実施・検証する体制が整っている。

めいぎん PIF におけるインパクトについては代表者が中心となり、管理・達成へ向けた施策を実施する。

インパクト管理者

最高責任者	代表取締役 金岡 秀介
-------	-------------

7. モニタリング方法

株式会社カネックスに対するめいぎん PIF のモニタリングは、インパクト管理者と名古屋銀行の担当者（法人営業部サステナビリティ推進担当及び営業店担当者）により年 1 回以上の協議を通して実施する。年 1 回以上の協議は、下記のプロセスで行われる。

項目	内容
1. 内容報告・実績開示	設定した KPI の達成度を確認する。
2. 検証・精査	達成度について開示された情報を名古屋銀行が確認する。
3. 修正の検討	達成度・進捗度を検証し KPI の修正を検討する。
4. 追加の検討	形骸化を防ぐ為、KPI の追加や削除を検討する。

名古屋銀行は上記のプロセスにおいて、自行のサポート及びアドバイスを実施する。また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センターに対し、包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

株式会社カネックスの事業内容及びインパクト調査の結果、手がける事業それぞれにポジティブ及びネガティブな影響を確認した。株式会社カネックスが KPI 達成を目指すことで社内、地域社会への大きな貢献が想定され、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」、ESG及びSDGsの観点からも十分な適合性を確認した。